



—第11号—

地域・だいがく連携通信

—神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室
〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1
TEL: 078-803-5427
FAX: 078-803-5389
E-mail: ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

地域連携トークイベント「A-Launch」の開催

—農学研究科地域連携センター—

2012年7月20日(金)の昼休みに、農学研究科学生ホール(A棟1F)に約30人の学生や教職員が集まり、地域連携トークイベント「A-Launch」が行われました。

第1回目のテーマは「丹波の赤じゃが」でつなげる地域と大学、講師は伊藤一幸農学研究科教授です。農学研究科地域連携センターではこれまでも、地域連携活動の発展を目的に「地域連携研究会」を開催してきました。そうした、地域での実践活動や農学の先端研究・理論に触れる場に、幅広い分野の方々にも気軽に参加してもらおうと、トークイベント(A-Launch)が企画されました。



伊藤先生のお話は、「丹波の赤じゃが」誕生秘話から始まりました。「私を農村に連れてって」という一学生の投書から始まった、篠山・真南条上宮農組合とのお付き合い。「もう1品特産物を」と願う地域の声と元附属食資源教育研究センター育種専門の保坂先生との出会いが、「ネオデリシャス」(赤じゃが) 植え付けにつながったこと。地域連携センターが介在し、今度は食料環境経済学の先生や学生らが「丹波の黒豆」と対称的なイメージをもつ「丹波の赤じゃが」のネーミングやパッケージを生み出したこと。「ここだけの企業秘密」などを交え、わかりやすく話してくださいました。農学部学生有志が調理した「赤じゃが」を試食しながらの楽しいひとときでした。



今年収穫された赤じゃが

トークイベント参加学生からは、じゃがいもの味の批評や販売場所などの質問がありました。フロアには、これまで篠山を訪れたことのない学生も参加しており、立ち見の方がいるほどの盛況ぶりでした。このトークイベントは今後も継続して行われる予定です。(問い合わせ先: 農学研究科地域連携センター)

「歴史資料の扱い方・地域づくりへの活かし方」セミナーの開催

—Rural Learning Network(篠山)×人文学研究科

2012年9月6日(木)に、篠山市民センターにて、「歴史資料の扱い方・地域づくりへの活かし方」セミナーが開催されました。当日は、「地域歴史遺産保全活用演習」という授業の一環で、篠山フィールドステーションにて合宿中の文学部及び人文学研究科の学生・大学院生たちが、地域の方々に交じって参加しました。

セミナーではまず、人文学研究科の坂江渉特命准教授が、地域歴史遺産についての捉え方や、他地域での活用事例を報告しました。続いて板垣貴志特命助教から、篠山に残る中西家文書調査では、史料をデジタル撮影し、作成した「歴史資料写真帳」によって公開の可否を確認する「迅速な利活用を視野に入れた」新しい調査方法を用いていると説明がありました。また、史料撮影に使用している写真撮影の機材も準備され、その実演も行われました。



今年度から篠山フィールドステーションでは、篠山市や他大学と連携して農村の学びの場をつくる、Rural Learning Networkセミナーの開催支援を行っています。このセミナーもその一環で、従来の「聞く」だけのセミナーから、地域の方々が活発に経験や疑問点を出し合うセミナーになりました。

インドネシア・イスラム国立大学から訪問

— 保健学研究科地域連携センター

2012年6月24日(日)から7月14日(土)までの3週間、インドネシア・イスラム国立大学の教員2名が、障害児看護学の研修のために保健学研究科に滞在しました。これはアジア教育経済開発機構の援助によるものです。神戸に滞在中、お二人は保健学研究科地域連携センターが主催している様々な事業に参加しました。それらの一端をご紹介します。

1. 重い障害のある子ども達への支援事業

「しあわせの村」で開かれる神戸市立養護学校のキャンプでは、保健学研究科の教員が夜間の見守りを手伝っています。子どもたちのキャンプファイアにインドネシアからの研修生も参加しました。開発途上国においても、以前の「感染症」などの生死の問題から、障害のある人々への支援などの生活の質に関する問題へと焦点が移ってきています。



神戸市立友生養護学校のキャンプ



パラバルーンに参加

2. 極低出生体重児の親子教室「YOYOクラブ」にて

インドネシアでも、急激な周産期死亡率の低下と低出生体重児の生存率の改善が顕著です。私たちが神戸市の委託を受けて運営している極低出生体重児の親子教室「YOYOクラブ」に参加しました。さすがに小児看護の教員だけあって子どもともすぐに仲良くなりました。

3. 学部・大学院学生とのカンファレンス

大学院生やゼミ生とともに研究や地域連携事業をめぐって熱心な討論をしました。インドネシアでは、障害児看護はようやくスタートについたところです。二人の研修生にとって、日本での障害のある子どもとその家族への取り組みはとても新鮮に映ったようです。

研究室でインドネシアでの取り組みを紹介



地域の子どもたちのためのフラッグフットボール教室

— 学生地域アクションプランより

神戸大学アメリカンフットボール部では、アメフトを通して地域と結びつくことを目指して、地域の小学生たちに呼びかけ、2012年8月18日(土)にフラッグフットボール教室を開催しました。このフラッグフットボール教室を企画した理由は、フラッグフットボールが、タックルの要素が取り除かれている種目であるため小学生でも安全に取り組み、またプレイが間接的で役割も明確であるため小学生にも分かりやすく、取り組みやすいからです。

当日は、10人以上の子供たちが集い、約3時間、元気に楽しくフットボールに取り組みました。子供たちは最初は緊張している様子でしたが、フットボールを始めるとすぐにレイバンズのメンバーとも打ち解け、休憩中も和気あいあいとしていました。



今回の教室を開催することを通して、地域の子供たちにスポーツに触れる機会を提供することができました。また、アメリカンフットボールという競技を子どもたちに知ってもらったことで、未来の神戸大学レイバンズのメンバーが増えるきっかけにもなったのではないかと思います。

今回の教室を開催することを通して、地域の子供たちにスポーツに触れる機会を提供することができました。また、アメリカンフットボールという競技を子どもたちに知ってもらったことで、未来の神戸大学レイバンズのメンバーが増えるきっかけにもなったのではないかと思います。

鳥取県南部町の取組み — 地域に開かれた学校

鳥取県の西部、米子市の南隣にある南部町の会見(あいみ)小学校では、平成17年度から、文部科学省の「コミュニティスクール推進事業」の研究指定を受け、学校、校区住民とともに学校づくりを行っています。

「コミュニティスクール」とは、学校運営の基本方針などについて、保護者や地域代表からなる「学校運営協議会」で協議する仕組みをもつ学校のことを言います (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/index.htm)。

会見小学校では、「地域協働学校」という独自名称を使っており、「あいみ学校応援隊」を立ち上げ、地域に開かれ、地域に支えられた、信頼される学校づくりを目指しています。中でも、南部町の高齢者がPTAならぬGTA(Grandparents Teacher Association)を結成し、積極的に子ども達にその知恵と技を伝えるユニークな活動を展開しています (<http://cmsweb1.torikyo.ed.jp/aimi-e/>)。

これらの実践について、特別講義「鳥取県南部町に於けるコミュニティスクールの挑戦」が、2012年7月12日(木)に発達科学部の授業の一環として行われました。この特別講義には、神戸大学と連携事業を進めようとしている三木市教育委員会の方々も参加されました。

「さわやかトーク」で兵庫県知事と意見交換

— 篠山フィールドステーション

2012年6月17日(日)、兵庫県井戸敏三知事との「さわやかトーク」に篠山フィールドステーションが参加しました。これは、知事が県内各地の現地実践活動グループを訪問し、自由な意見交換を行うもので、丹波地域では、毎年開催されています。

参加者は、一般社団法人ノオトと神戸大学篠山フィールドステーションのメンバーおよびそれぞれに関係する地域の方々です。この日、篠山城跡大書院虎の間に設けられた特別会場で、「農を使った地域づくり in 丹波」をテーマに、知事と車座になって自由に話し合いを行いました。



参加した布施未恵子地域連携研究員(篠山フィールドステーション駐在)の報告によると、知事から大学生特有の「4年間」という期間限定のついた地域活動の意味について質問があり、その場では「なんらかの形で(その後も)関係を続けている」と答えた。さわやかトーク後、「将来、各学生が住む場所で地域づくりに関わる」ことになったとき、「篠山や農村での滞在期間の経験を通してよい基礎ができていれば、日本国内どこでも活躍できる」と、日本中に「篠山印のついた学生」が広がっていくことに意義があると回答すべきであったと述べています。

篠山フィールドステーションは全学部利用できます。篠山で何か連携活動を始めてみたいと思われた方は、地域連携推進室までご連絡ください。(地域連携推進室 HP…<http://www.office.kobe-u.ac.jp/crsu-chiiki/index.html>)



平成24年度 地域連携 学内公募事業

地域連携推進室では、学内の新しい地域連携の芽を育てるため、各部局等で計画されている事業の支援や、学生による地域社会を活性化しようとするための活動の支援をおこなっています。今年度は、次の各事業が採択されました。

地域連携事業（教職員対象） 採択事業

申請部局名	申請事業名
人間発達環境学研究所	兵庫県内の市民グループによる科学コミュニケーション活動への支援
経済学研究所	容器包装ごみ発生抑制の生活実態調査
経済学研究所	能勢町の農地集積促進および六次産業化の強化事業
医学研究所	兵庫県喘息死ゼロ作戦
人間発達環境学研究所	ESD ボランティア育成プログラム拡張支援事業（継続事業）
都市安全研究センター	神戸大学都市安全研究センター発“みんなで考えよう 安全・安心で快適なまちづくり”（継続事業）

学生地域アクションプラン（学生対象） 採択事業

申請団体名	申請活動名
神戸大学体育会アメリカンフットボール部	地域の子どものためのフラッグフットボール教室
K × lab	甲陽園大池市営住宅跡地活用プロジェクト

平成24年度 神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業助成

神戸大学と灘区との間で締結された連携協定に基づき、平成17年度より、神戸大学の教員・職員・学生からなる組織を対象に「地域の課題の解決および魅力の向上を目的として実施する活動・事業」に対して灘区が助成を行っています。今年度の採択事業は次のとおりです。

申請団体名	申請事業名
人文学研究科地域連携センター（教職員）	「摩耶道のとおり村の歴史」資料調査・講演会開催・冊子編集事業
スイング・ジャズ・クルーズ実行委員会	スイング・ジャズ・クルーズ in 神戸
まちプロジェクト実行委員会	まちプロジェクト 一まちTゆうえんち'12-

活動報告（2012年4月～2012年8月）

4月 02日	地域連携事業（教職員対象）、学生アクションプラン（学生対象）の公募開始（～27日） 神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業助成の公募開始（～18日）
05日	人文学・農学・保健学各研究科地域連携センターと打合せ
13日	加西市長来訪、学長と懇談
17日	三木市、地域連携事業についての相談のため来訪
23日	加西市、地域連携事業についての相談のため来訪
27日	神戸大学・灘区まちづくりチャレンジ事業助成企画審査会にオブザーバー参加
5月 08日	平成24年度第1回地域連携推進室会議
10日	三木市教育委員会、人間発達環境学研究所との地域連携事業についての相談のため来訪
22日	平成24年度第2回地域連携推進室会議
31日	住吉学園訪問、人と防災未来センター訪問
6月 08日	三木市、地域連携事業について相談のため来訪
17日	兵庫県知事とのさわやかトークに参加（篠山フィールドステーション）
19日	神戸市大学連携支援室来訪
26日	三木市、地域連携事業について相談のため来訪
7月 09日	第4回地域歴史文化連携コンソーシアム開催（人文学研究科）
11日	「域学連携」地域づくり実証研究事業（都市農山漁村交流型）に採択（篠山市との連携）
12日	特別講義「鳥取県南部町に於けるコミュニティスクールの挑戦」（人間発達環境学研究所）
20日	地域連携トークイベント「A-Launch」開催（農学研究科地域連携センター）
30日	三木市、地域連携事業について相談のため来訪
8月 02日	岩手大学訪問

編集後記

「暑さ寒さもお彼岸まで」。厳しかった残暑も過ぎ、しのぎやすい日々になりました。今、篠山が元気です。篠山フィールドステーションを拠点に、様々な活動が行われています。篠山フィールドステーションのHPやTwitterをのぞいてみませんか。（HP…<http://kobe-face.jp/sasayama/> Twitter…@SasayamaFS）

